

(2012年3月号掲載)

## 北関東道全線開通による県内温泉旅館・ホテルへの影響調査

一般財団法人群馬経済研究所  
主任研究員 松下 均

### ～要 約～

1. 2011年3月に北関東自動車道が全線開通した。観光庁「宿泊旅行統計」によれば群馬県内の大規模観光旅館・ホテルでは、茨城、栃木両県からの宿泊者が東日本大震災後も大幅に増加していること等から、全線開通がプラスの影響を与えたと推測される。
2. 北関東自動車道の全線開通に関して、群馬県内の温泉旅館・ホテルを対象にアンケート調査を実施したところ、自社への影響では、「売上」と「客数」の両面で、35%前後の施設が増加と回答した。また、地域観光業への影響では、プラスが42%を占めた。
3. 北関東道全線開通前後の宿泊客の居住地別増減をみると、茨城県、栃木県、福島県からの客が増加したという回答が多い。
4. また、北関東自動車道全線開通に向けた対策では、75%の施設が地域、自社ともに実施していなかった。一方、実施した25%の施設にその内容を聞いたところ、地域としては「イベントの実施・参加」(55.0%)が、自社では「旅行代理店等への営業」(47.8%)がそれぞれ最多であった。
5. 今後の懸念材料として、7割弱の施設が「宿泊客の日帰り化」を、4割強が「観光地間の競争激化」を選択し、また、北関東自動車道全線開通を有効に生かすための対策では、8割が「実施する必要がある」と回答した。対策の方向性については、「観光地や個別施設の認知度向上」を7割弱の施設が挙げ、次いで「観光地や個別施設の魅力向上」が挙げられた。
6. 今後は、北関東自動車道全線開通を有効に活用するために、「広告・宣伝の強化」と「宿泊施設や観光地、観光エリアの魅力向上」に、観光地内や観光地と群馬県などの間で連携を強化して取り組む必要があるだろう。